
令和 2 年度
根室市市政委員会

提言書(案)

令和 2 年 月

令和2年度根室市市政モニター会議では、「市民と行政がともに考え取り組む双方向の情報共有について」をテーマに、「市民から発せられる声」と「行政から発信する情報」を市民と行政が相互に共有するために、「どうすれば市民の声が行政に届くのか」、「どうすれば行政の情報が市民に届くのか」について協議を重ね、根室市の広報広聴活動の参考としていただきたい事項を取りまとめましたので、次のとおり提言いたします。

令和2年 月

令和2年度 根室市市政モニター 一同

1. 根室市の広聴活動について

(1) 市民からの意見や提案を行政に届ける取組

(提言1) 「市長への手紙」で寄せられた意見の紹介機会の増加

《課題整理》

現在、根室市の広聴活動は、市議会、市政モニター、まちづくり出前講座、町内会等との意見交換会などまとまった市民を対象とした活動と、市長への手紙、パブリックコメントなど個人を対象とした活動をそれぞれ行っていますが、とりわけ、個人を対象とした活動に関しては、市民から根室市に対する意見が少ない傾向にあります。

これは、市政への関心が低い人や市役所に対し苦手意識を持っている人がいることも原因の一つとして考えられますが、一方で、各種広聴活動の認知度の低さや手続きの煩雑さが影響しているのではないのでしょうか。

また、「市長への手紙」により根室市に寄せられた意見の紹介が「広報ねむろ6月号」の年1回の現状では市民の目に触れる機会が少なく、「市役所に対し意見を提出しても対応してもらえない」と考える人も多くいると思います。

《解決案》

この課題を解決するため、「市長への手紙」により寄せられた意見について、広報ねむろへの掲載回数の増加や根室市公式ホームページでの公開を行ってはいかがでしょうか。意見内容の大小に関係なく、寄せられた意見を今まで以上に紹介することで市民と根室市のキャッチボールが目に見える形となることから、根室市への信頼感の向上につながり、さらには、紹介された意見を目にすることで市民同士の共感も生まれ、根室市に対し意見を出しやすい環境を醸成すると考えます。

（提言２） 根室市公式ホームページの改善

《課題整理》

手続きの煩雑さに関して言えば、パブリックコメントに対する意見書や市長への手紙は、手書きの上、市役所や歯舞支所に届けるか、ポストに投函することが主な方法であり市民にとっては負担と考えられます。

また、ホームページから意見を届けることも可能ですが、その届けるページがどこにあるのか分かりにくく、標記も「お問い合わせ」となっていることから意見を発信しにくい状況にあるのではないのでしょうか。

《解決案》

この課題を解決するため、根室市公式ホームページのトップページに「（仮称）市への意見」というアイコン配置するなど、目に留まり易く誰でも気軽に意見を投稿できる仕組みにしていかがでしょうか。

（提言３） 市民周知の徹底

《課題整理》

認知度の低さに関して言えば、各種広聴媒体の周知回数を増やし、地道に取り組むことでしか向上は見込まれないと考えられます。

《解決案》

この課題を解決するため、既存の取り組みを継続しつつ、さらに同報無線を活用していかがでしょうか。

また、こどもたちに広報広聴活動について教えるなど、幼少期から行政に関心を持てる様な取り組みを行ってはいかがでしょうか。これにより、行政に関心を持つ市民の増加に期待できるとともに、こどもから両親や祖父母へと伝わる家庭内での広がりにも期待できます。

2. 根室市の広報活動について

(1) インターネット環境がある人に向けた情報発信

(提言1) 各世代に合わせた情報発信

《課題整理》

インターネットの普及が進み情報化社会は大人だけのものではなく、小学校の授業にも活用されている時代の中、近年ではSNSが普及し、企業や団体、個人が不特定多数の方に気軽に情報発信できる一方で、高齢者や障がいを持った方など、インターネットの利用が苦手な方もいらっしゃいます。

また、電子新聞や電子書籍が普及しペーパーレスが進む中、新聞を読まない、マンガの読み方が分からないなど、若年層の活字離れも全国的に広まっている現状にあります。

このことから、これからの広報活動は各世代に合わせた情報発信が必要と考えます。

《解決案》

この課題を解決するため、高齢者層には「広報ねむろ」を基本としつつ、幅広い世代に利用されている「LINE」をはじめ、中高年層には「Facebook」を、若年層には「Twitter」や「Instagram」といった様に、SNSの利用年齢層を的確に把握し、各世代に合わせた情報発信を行ってはいかがでしょうか。

(2) インターネット環境を要しない情報発信

(提言1) 多様な情報発信ツールの用意

《課題整理》

情報発信は、平常時や緊急時などあらゆる場面において何らかの方法で情報を取得できる様に多様化を図る必要があると考えます。

現在、根室市では広報紙、新聞記事、ラジオ放送を活用していますが、緊急時に関しては即時性が求められるため、各家庭にある情報取得ツールとして考えられるのは電波を利用するテレビやラジオではないでしょうか。

特にテレビは、多くの家庭にあるため新たに設備投資を行う必要が無く、誰にでも一斉に情報が届く情報発信ツールになると思います。また、操作が簡単でスマートフォンやパソコン操作が苦手な方も情報取得が容易に行えと考えられます。

《解決案》

この課題を解決するため、新たにテレビを活用した情報発信を行ってはいかがでしょうか。

(提言2) 町内会などの地域コミュニティの活性化

《課題整理》

人と人のつながりも広報活動の一つとして考えることが出来るのではないのでしょうか。

若年層はSNSで、中高年層は口コミなどで、情報伝達には人と人のつながりが欠かせない要素ですから、地域コミュニティを活性化し人と人のつながりを強化することで、情報伝達も相乗的に強化されると思います。

また、若年層が中高年層にSNSの情報や利用方法を教える、中高年層が若年層に新聞などの情報を教えるといった、各世代に不足する情報の補完効果も期待できます。

《解決案》

この課題を解決するため、地域コミュニティ活動の活性化に向けた支援を強化してはいかがでしょうか。

3. 各種広報媒体のより一層の周知活動の徹底について

(提言1) 継続的なPR活動

《課題整理》

根室市では、広報紙やホームページのほか、フェイスブック、市民ニュース、市役所だより、ねむろメールなど様々な広報活動に取り組んでいますが、その閲覧数や登録者数は低い現状にあります。

この背景には、そもそも各種情報発信ツールの認知度が低いことが考えられますので、まずは認知度の向上を図る活動が必要と考えます。

また、利用者が少ないからといってその取り組みを止めてしまうのではなく、多種多様な情報発信ツールを用意し、必要な人が必要な時に得意なツールを利用できる環境が整っていることが重要と考えます。

《解決案》

この課題を解決するため、広報ねむろで各種広報媒体を毎月紹介してはいかがでしょうか。

(提言2) 積極的なPR活動

《課題整理》

提言1でも述べましたとおり継続的なPR活動が必要と考えますが、加えて、積極的なPR活動も必要と考えます。

現状では、市民の目に留まりやすい取り組みが行われていない様に感じます。

《解決案》

この課題を解決するため、広報担当職員により各種情報発信ツールの普及や登録をサポートする「出前講座」を始めてはいかがでしょうか。また、各種情報発信ツールをお知らせする専用のポスターやチラシ等を作成し、市内店舗や根室市主催の各イベントなど市民が多く集まる場でのポスター掲示、チラシ等の配布を行ってはいかがでしょうか。

(提言 3) 広報紙に景品を

《課題整理》

現在、根室市の広報紙は幅広い年代に親しまれていて、特に40代以上の方がご覧になられている一方で、30代以下の読者が少ない傾向となっています。

その原因としては、市政に対する関心の低さや活字離れが考えられます。

《解決案》

この課題を解決するため、広報紙を読んで応募すると抽選で景品が当たる取り組みを行ってはいかがでしょうか。

これにより、広報紙を読んでもらうきっかけづくりが出来ると思います。

以上、「市民と行政がともに考え取り組む双方向の情報共有について」提言しますので、これらの取り組みについて検討してください。

《会議開催経過》

	開催年月日	主な内容
第1回	令和 2年 8月 4日（火）	・テーマ「市民と行政がともに考え取り 組む双方向の情報共有について」の説明 ・意見交換 ⇒次回までにアイデアを用意
第2回	令和 2年 10月 15日（木）	・意見交換 ⇒次回までに提言書（案）を用意
第3回	令和 2年 12月 1日（火）	・意見交換 ⇒提言書の完成
第4回	令和 2年 月 日（ ）	・提言書の提出 ・提言に対する意見交換

《令和2年度根室市市政モニター》

	氏 名	所 属
1	腹 帯 留美子	根室漁業協同組合女性部
2	苫 谷 幸 子	歯舞漁業協同組合女性部
3	庄 林 大 騎	落石漁業協同組合青年部
4	宇佐美 修 一	根室市文化協会
5	佐 藤 元 良	根室市地域子ども会育成連絡協議会
6	齋 藤 信	根室市町会連合会
7	中 島 航 輝	ねむろこどもフェス実行委員会
8	鎌 田 淳	根室青年会議所
9	飯 澤 祐 真	根室郵便局
10	岡 田 勝 治	根室市PTA連合会
11	寺 島 毅	根室商工会議所青年部
12	野 陳 克 敏	根室商工会議所青年部